

# 山麓探偵団通信

11月号

十月十五日に初冠雪を記録した富士山、その翌日が探偵団の活動日でした。当日は、昆虫の林正美先生に、クローマアリやサムライアリ、チャイロスズメバチの珍しい行動話などをうかがってから、総勢十五名で出発。あいにく富士山頂は雲に隠れましたが、好天に恵まれた忍野の鳥居地味から高座山にかけての茅場を、観察をしながらゆっくり歩きます。

アキアカネの見分け方、ヨコバイの名の由来、カメムシの種類の生態、カントンの鳴声、バッタの耳の位置、気門・呼吸口など、また、暖かくなると動き出し、寒くなると隠れて動かなくなることを繰り返す越冬前のカメムシの行動などを目の当たりにして、今までとちがった目が養われていく一日でした。

昆虫の非活動時の天敵に対する防御の仕方、体色変化なども、おどろくばかりです。

林先生、伊藤カメラマン、ありがとうございました。

## ◇林正美先生の講評

自然の中で生き物に接するとき、一番大事なのは自分の目で見る、さわる、少しは威嚇してみる、すなわち、五感

で質感や躍動感を感じとり、生物に親しみをもち、その多様性を知ることです。



右上= キリギリス♀  
右下= キアゲハの幼虫  
左上= テングチョウ  
左下= アカスジカメムシ

基本中の基本は、生物の色・形と正しい名を知り、形態情報で分類された単位としての種を認識することです。また、自然環境のよさや変化は、そこに生息する生き物たちの数や動きによって確認できます。

## ◇参加者の感想

- ・アブラムシが、卵から生まれるのではないことを知った。
- ・生き物たちを、じっくりこころして見るのはおもしろい。
- ・アリの引越したと思っていたものが、実は奴隷狩りだと知った。
- ・ふだん山中湖に来ると、建物の中ではテントウムシ、カメムシ、クモくらいしか見ないので、きょうは新鮮だった。
- ・カメムシの種類の多さに驚いた。
- ・きょうのワクワク感を忘れないようにしよう。自分の専門外のことを知るのには大事なこと。
- ・ふだんなにげなく歩く場所での新しい気づきがあった。
- ・カントンをはじめて見た。不思議だったチャイロスズメバチの行動説明（巣同士のケンカ）に納得。
- ・バッタの気門・呼吸口の逸話に、自分もはっとさせられた。
- ・サムライアリの奴隷狩りの行動を、はじめて知った。
- ・打水産卵などの専門用語が初耳で、頭の中での変換作業に苦労したが、楽しい一日だった。
- ・生き物たちが住みあっているのを、あらためて知った。
- ・しばらく観察や描くことを怠っていると、忘れてしまうので、きょうはいい機会だった。
- ・生き物たちの暮らし方に、学ぶことが多かった。

## ◎ お知らせ ◎

『戸高雅史著 はじめの親子登山』が山と溪谷社より刊行されました。価格は1000円プラス税。親子だけではなく、ひとりひとりにこの山歩きを後押しする戸高さん独自の姿勢が、ハンディな一冊にこめられています。ぜひとも、ザックに『戸高ワールド』を！

## ■第236回 探偵団活動「ご案内

### 自然の中で磨く身体センサー

世界最高峰に単独で挑んだ、アルピニストの戸高雅史さんが団長です。冬の富士山の森林限界と、水の流れる里の森に身を置きくらべ、体を感じる変化を体験してみます。

- ・活動日＝十二月十一日（木）
- ・集 合＝午前九時に山中湖畔旭日丘セブンイレブン駐車場
- ・参加費＝一八〇〇円 ガイド代、保険代を含む
- ・持ち物＝昼食・マイカップ・防寒具・雨具・敷物・任意でストック、双眼鏡など

◎申し込み・問い合わせは三日前までに、電話かメールでお願いします。

発行＝山麓探偵団事務局  
山梨県山中湖村平野 一六九八  
電話 〇五五五・六五・七〇二三